

ノリ養殖におけるクロダイの食害実態とその防護対策

養殖ノリの安定生産に向けて

【背景・目的】

- ・クロダイによる養殖ノリの食害が深刻化し、ここ数年で県下全域に拡大しました(図1)。
- ・現場では生産者による防護対策が実施されており、その効果について検証しました。

【成果の内容】

材料と方法

ノリの初摘採前の時期にあたる令和5年12月4日～8日に、主要なノリ養殖漁場の犬島周辺で調査を行いました(図2)。ノリ網の下に食害を防ぐための防護網の設置(防護網区)、長く薄い金属板で光を反射する忌避材の設置(忌避材区)、無対策区の3区を設定し(図3)、各区にタイムラプスカメラ(図4)を1機ずつ設置しました。また、カメラ回収時に各区のノリ葉体をサンプリングし摂食痕を調べました。



図1 食害対策の取組状況(R5漁期)

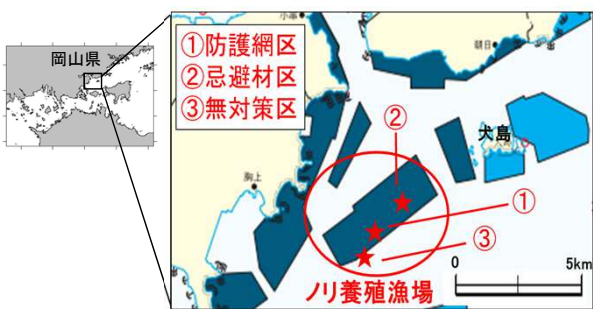


図2 調査位置図

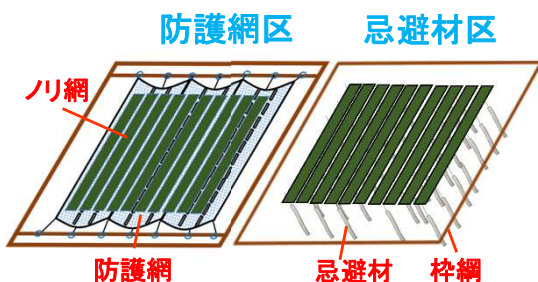


図3 防護対策の模式図



図4 タイムラプスカメラ設置状況

結果

忌避材区と無対策区のいずれでもクロダイの群れがノリ網に来遊し(図5)、多いときには1時間で延べ約2,000尾以上が確認されました(図6)。忌避材区と無対策区のノリ葉体を確認したところ、葉体の先端がささくれ立って短縮化しているなど、摂食痕が確認されました(図7)。一方、防護網区のノリ葉体は摂食痕が確認されず、食害防止効果が確認されました。

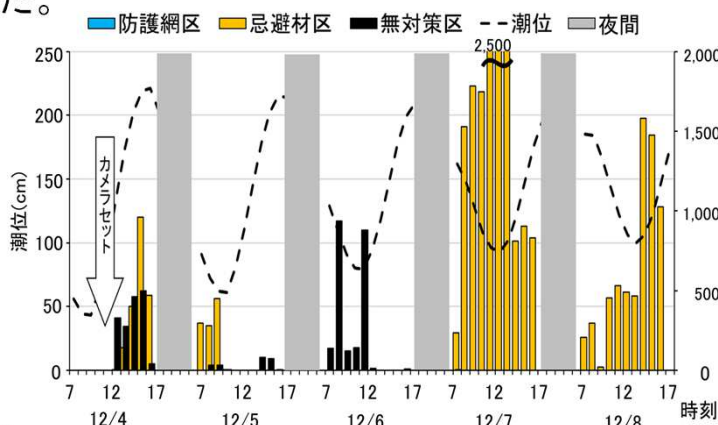


図6 各区のクロダイ延べ来遊数と潮位

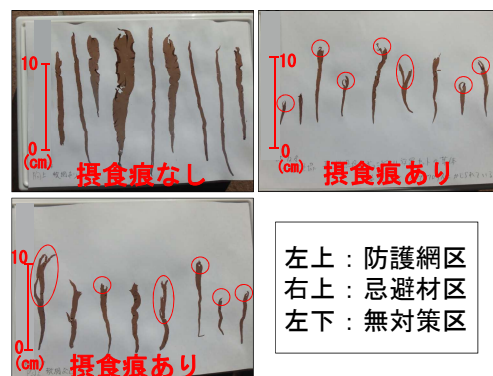


図7 各区のノリ葉体

引き続き、クロダイの食害実態及び防護対策の効果等を調査し、得られた知見を生産者に還元することにより、防護対策の導入促進に繋がたいと考えています。